

平成 22 年度研究チーム活動中間報告（第 1 回目）

「日本と中国における企業間ネットワークの形成とその効果について

——企業間ストラテジックアライアンスと ICT システムの両面からのアプローチ」

No.116 研究幹事：杉田俊明（経営学部）

本研究チームの研究目的と 2010 年における研究成果について下記の通り中間報告を記す。

研究の目的

本研究は、戦略的な視点から日本企業の中国企業との企業間連携の在り方と、企業間情報通信技術（ICT）システムの連携の両面から研究を進め、企業間、経営者間や経営組織間の連携を研究すると同時に、企業間の ICT ネットワークも含め、システムとしてのトータル的な連携ネットワークの形成を研究するものである。加えて、日本企業と中国企業間の新たな相互協力の枠組みの形成や日中の経済発展に新たなビジネスモデルを提案する。

2011 年度の研究成果

2010 年度における主な研究と研究交流としては

(1) 2010 年 6 月 25 日～27 日において、経営学部杉田俊明教授と知能情報学部岳五一教授は中国北京市を訪問し、企業間情報通信技術（ICT）システムに関する現地調査および企業視察を行い、日本と中国の企業間、経営者間や経営組織間の連携に関して学術交流を行った。特に中国移動通信集团公司、都科摩通信技術研究中心有限公司(Docomo、北京)の経営者、技術者と座談会を開いたり、中国における最新の無線通信ネットワークシステムを見学したりして、中国の企業間情報通信技術（ICT）システムの一部を覗くことができた。さらに、最適化、階層的計画法、決策解析、ゲーム理論、金融管理、リスク管理などを中心に多くの優れた業績をあげている中国科学院応用数学与システム科学研究院院長をはじめ、研究者間で日中企業の経営戦略、経営組織、経営システムなどに対する学術交流を行った。

次に、(2) 2011 年 1 月 19 日～23 日において、杉田俊明教授と岳五一教授は 2 回目の中国訪問を行った。今回の訪問は主に日本と中国における企業間ネットワークの形成とその効果について、企業間ストラテジックアライアンスと ICT システムの両面からのアプローチに関する International Workshop on the Networks between Companies in China and Japan で研究成果の発表と学術交流を行った。当該ワークショップにおいては杉田俊明教授と岳五一教授を始め、中国科学院管理、決策与信息系統楊晓光研究员、北京郵電大学経済管理学院吕廷杰教授（共同研究員でもある）、中国科学院研究生院管理学院吕本富教授、中国科学院研究生院管理学院徐艳梅教授はそれぞれ 30-40 分の研究報告を行い、質疑討論を活発に行った。これによって、経営学的な視点からは日中企業における経営戦略、経営組織、経営システムなどの比較研究を行ない、両国企業における連携の実態調査とその連携の可能性を模索することができた。同時に、情報通信技術的な視点からは日中における企業内 ICT システムの構築度合いについて比較研究を行ない、システムの共通性や相違点などを研究の上、両国企業間における共有のプラットフォームを構築するためのモデルを模索し、その構築を具体的に検討することができた。

2010 年度の研究活動により、経営学と情報通信技術の両面からそれぞれの学術分野に対して刺激的な結果をもたらせ、学際的に研究の視野を広げることができた。2011 年度においてはより広範囲に、より具体的に日中両国の企業にとって有用で、日中連携ネットワークの形成に寄与できる成果を得たいと願っている。